

2014年3月20日発行

## きらきら基金では、17団体3事業の皆様に、助成を受けていただきました

市民活動応援☆きらきら基金では、2月22日に、桑名市総合福祉会館で、第3回の助成事業を行いました。120名以上の皆様にご来場いただき、80名の方々が寄附投票に参加され、総額398,900円と応援していますという気持ちとを、この地域の身近で小さな市民活動に届けることができました。

当日のご来場はもちろん、さまざまに支えていただきましたたくさんの皆様、ほんとうにありがとうございました。

### ♥2014年2月 団体助成先（17団体 合計308,900円）

いなべおもちゃ病院	南金井地域サロン”宮美会”
劇団員弁川	特定非営利活動法人生ごみリサイクル思考の会
笹尾民踊クラブ	桑員地区更生保護女性会
特定非営利活動法人 よすが	特定非営利活動法人 いなべこども活動支援センター
エンパワメントみえ	特定非営利活動法人 MCサポートセンターみっくみえ
特定非営利活動法人 のぞみの里	子育てボランティアトライアングル
特定非営利活動法人 みのり福祉会	
あかりプロジェクト桑名	
桑名女性ネットワーク	
特定非営利活動法人 くわな子どもネット	
市民活動応援☆きらきら基金	

### ♥複数の団体がいっしょに行う、パートナー事業助成先 （3事業 各30,000円 合計90,000円）

- ★参加型防災ゲーム「防災スゴロク」等活用事業  
防災ネットとういん☆いなべ防災ボランティアの会
- ★放浪の合唱作曲家 弓削田健介氏講演会  
（お母さんの会）あいうえお☆エフ・フィールド
- ★みずほのおかげ市場からねじり橋、めがね橋を含む周辺案内  
みずほのおかげ市場☆ふるさといなべ市の語り部の会



## 「桑名をブランド化して価値を高める」桑名市長トークタイム

伊藤なるたか桑名市長のトークタイムでは、掲げている「桑名市の7つのビジョン」の進展状況を報告いただき、その中で、「桑名をブランド化して価値を高め、さまざまな資源をこのまちに呼び込む」ということでした。「役所だけでやるのではなく、市民の皆さんといっしょにやるという発想」で取り組んでいること、また、市民活動をしている皆さんは、いっしょにまちづくりをしていく仲間として、市長カフェに申し込んでいただいて、「最低1時間、活動している現場に行って、お話しさせていただく」というメッセージをいただきました。お忙しい中、時間をつくっていただき、ありがとうございました。

## このまちには、すてきな団体でがんばっている、すてきな人たちがたくさんいます

助成対象団体のみなさんのプレゼンは3-5分なのですが、前回受けていただいた方たちには、1分間という短い時間で、きらきら基金の助成による「成果のご報告」がありました。ほんとうに短い時間なのですが、みなさんいっしょうけんめいに、自分たちの団体のことや活動の様子をお伝えいただきました。ありがとうございました。このまちには、すてきな団体でがんばっている、すてきな人たちがたくさんいるのだと、あらためて感じました。

### ★2013年3月 助成先団体 成果の報告（20団体中15団体／残り5団体は時間切れで後日に）

いなべ市レクリエーション協会	みずほのおかげ市場	つちっこの会
ふるさといなべ市の語り部の会	東員点訳友の会	はぎフラワーサークル
東員町障がい児者親の会	地域の茶の間 ひまわり	東員花卉くらぶ
桑名傾聴ボランティア みみずく	（お母さんの会）あいうえお	CAPみえ 桑名グループ
環境学習サークルみえ桑名（桑員地区）	稀少難病の会 みえ	桑名の千羽鶴を広める会

（時間切れで、後日に他の方法でとなってしまった5団体 m( )m）

桑員バリアフリーの会	知的障害児・者の生活を充実させる会	あおむしの会
NPO福祉ネット どんぐり	桑名アレルギーっ子集まれ！	市民活動応援☆きらきら基金

## 聞いてみて、見てみて、わかったのは、同じ気持ちなんだということ

この地域にご縁があって、ちょっとした社会貢献活動をしている企業・組織の数は、ひょっとしたら市民活動団体より多いかもしれません。その中で、展示や発表という形で、9つの企業・組織の方々に、皆さんの前に出て語っていただきました。企業は地域をととても大切に思っていることもわかり、持っている経営資源を活かして、さまざまな活動で地域を支えておられることもわかりました。特定非営利活動法人津市民活動サポートセンター理事長の川北輝さんから、発表された方々それぞれにコメントをいただき、私たちからも感謝の気持ちも伝えさせていただきました。



### ★企業の社会貢献活動の発表・アピールと展示（5企業・組織発表）

(株)デンソー 大安製作所	トヨタ車体(株) いなべ工場	
桑名北ロータリークラブ	桑名商工会議所	百五銀行 桑名支店

### ★企業の社会貢献活動の展示（4企業・組織発表）

(株)三五三重 三重工場	瑞宝しぐれ(株)	桑名信用金庫	三重銀行
--------------	----------	--------	------

## ほんとに小さなお金が集まって、それが応援の気持ちへとりました

当日のお昼は、桑員更生保護助成会の皆さんの手づくりのおにぎりと味噌汁、作業所のみなさんのパンやコロッケをいただいた後で、午後の部は、宮美会さんの楽しい演奏からはじまりました。

その後の寄附セレモニーでは、この地域でカエル・こぶたの募金箱を設置・ご協力いただいた「きらきら基金☆ファンドレイザー」の皆さんから、たくさんの小銭がはいった18個もの募金箱で合計70,231円をご寄附いただきました。当日のコーヒー寄附は5,742円。未使用・遣い損じ葉書や切手は後日全部切手にしたところ8,020円にもりました。また、120名の来場者のうち、80名の方が交換された寄附投票券で109,800円分、実際には108,900円分が寄附投票されました。

ありがとうございます。今回の助成事業での当日のご寄附は、193,793円でした。そのうち185,773円を助成資金とし、遣い損じ葉書などの8,020円分はきらきら基金の運営費とさせていただきます。

今年度の事前のご寄附額207,908円と、昨年度の繰越助成資金寄附74,754円、今年度当日助成185,773円を合わせて、助成用のご寄附額は468,435円になりました。その内398,900円を今回の助成資金とし、残りは次回の助成用資金に持ち越しさせていただきました。

ありがとうございます。これまでに、331口、988,655円のご寄附をいただきました。2011年10月に具体的な取り組みをはじめてから、先日の第3回の助成事業の2014年2月までに、このようにたくさんの皆様からご寄附をいただきました。(募金箱はひとつを1口として計算)

これまでの助成総額は、のべ50団体3事業に、908,100円になりました。

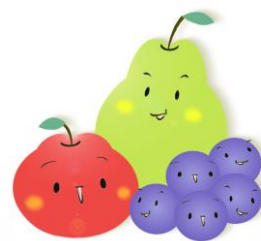
2014.2.22 / 17 団体 3 事業 398,900 円 (120 名参加・寄付投票 80 口)

2013.3.9 / 20 団体合計 320,800 円 (140 名参加・寄付投票 98 口)

2012.6.16 / 13 団体合計 188,400 円 (72 名参加・寄付投票 67 口)

きらきら基金助成用資金繰越額 69,535 円

きらきら基金運営費繰越額 34,220 円



## たくさんの皆さまに、さまざまに支えていただきました

全体を通じて、たくさんのおみなさまに、資金から運営から広報から、さまざまに支えていただきました。ありがとうございました。また当日は、桑名北高校のボランティア部の生徒のみなさんが進行から受付、集計まで手伝っていただき、桑名西高校の放送部の生徒のみなさんはインターネット生放送で中継していただきました。また、新しいパートナー事業助成の審査委員のみなさん、当日は行けないのでと多額のご寄附をいただいた方々、広報を支えてシェアしていただいた方々、Kuwanavi My さん、みえみえなびさん、伊勢新聞さん、後援いただいた方々、たくさんの皆様、心より感謝します。ありがとうございました。

私ども、市民活動応援☆きらきら基金は、さらなる進化を求め、地域に必要な市民活動のインフラのひとつをめざして、これからも活動してまいります。皆様の応援をよろしく願いいたします。

## 郷土史家 西羽晃氏の歴史寄稿

幕末・維新の桑名藩シリーズ 38 松平定敬の降伏

明治2（1869）年4月7日、前桑名藩主・松平定敬は部下の酒井孫八郎らとともに箱館（函館）を出発し峠下で一泊し、翌日に森村へ着いて宿泊した。ここから船に乗り、室蘭沖合に停泊している大きな船に乗る予定だったが、海が荒れたため9、10日と滞在した。11日に森村から出航したが、停泊している筈の船に出会えず、やむなく引き返し、12日に砂原へ着船。陸路を歩いて亀田に夕刻に着いた。ここで板倉勝静・小笠原長行らの一行とも一緒になった。ここから金子（平松屋）寅吉が箱館へ行き、調べたところ、上海行きのアメリカ帆船が明朝に出港する情報を持ち帰ってきた。しかし全員が乗ることが出来ず、定敬と酒井・松岡孫三郎・金子のみ乗ることになった。定敬ら一行は深夜に亀田を出て、箱館に向かい、13日未明にアメリカ帆船に乗船して、蝦夷から脱出できた。

最初は風がなくて船は進まず、途中から逆風の南風となり、あちこちの港で風待ちしながら26日になって、やっと横浜沖に到着した。ここで酒井は下船し、小船で横浜へ着いた。定敬はそのまま上海へ向かった。金子も同行したようだ。金子は横浜で貿易商をしており、海外の事情も詳しく、英語も話せたので、定敬に同行したと思われる。

酒井は28日に東京へ到着して、様子を探り、5月3日に東京の尾張藩邸（市ヶ谷）へ出頭して、経過を述べて定敬が降伏する旨を伝えた。定敬は取りあえず上海へ行き、その間に酒井が降伏の根回しをしたようで、近いうちに定敬が横浜へ帰ってくることは予定の行動であったと思われる。酒井は8日に尾張藩の武士が付き添われ、横浜へ行き定敬が戻って来るのを待った。

定敬と金子が上海へ着いた日は不詳だが、5月10日に上海を出港する、アメリカ郵便汽船（MAIL SHIP、当時の訳語では飛脚船）コストリア号に定敬らは乗船し、13日に長崎、16日に兵庫を出港して、18日に横浜へ着いた。当時のアメリカ郵便汽船は上海—長崎—兵庫—横浜—箱館—上海を航路としていた。18日夜に横浜へ上陸した定敬を酒井は出迎えて、すぐに林光寺へ行き、宿泊した。定敬は20日夜に尾張藩の兵隊に付き添われて、横浜を出発し、翌日の未明に東京の尾張藩邸へ着いた。以後はこの尾張藩邸で謹慎生活をおくり、酒井や生駒伝之丞らが付き添った。

5月24日、伏見から奥羽に到り、さらに横浜へ着船した経緯を書き出すように、政府から命じられ、25日に陳述書を差し出した。さらに26日に箱館から上海を経て横浜に着いた月日を書き出すように命じられて、直ぐに追加の陳述書を差し出した。この陳述書に書かれた月日などは、他の史料を照合すると、若干の相違があり、少し作為がみられる。

寛大な処置を望む嘆願書が桑名の地元から出され、政府で検討の結果、8月15、桑名藩の再興が認められた。領地は約半分の6万石となって、員弁郡の一部や柏崎の飛び地などは政府に取り上げられた。定敬は27日に東京神田橋内の津藩邸に移り、ここで謹慎生活を送ることになった。

- 参考文献 「酒井孫八郎日記」（『維新日乗纂輯』第4巻所収）  
「松平定敬家記」（国立公文書館所蔵）  
「公文録」（国立公文書館所蔵）  
『戊辰戦争見聞略記』（くわな市民大学歴史専門学科編集）  
『THE HIOGO AND OSAKA HERALD』（1869年6月26日）  
『THE JAPAN TIMES' OVERLANDO MAIL』（1869年7月13日）  
「松平定敬降伏の経過」（西羽晃『郷土史を訪ねて』所収）